

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次	会員通信	485
	雲南地衣類調査行2014(その4) / 原田 浩	485
	昆明の地衣類研究グループ / 原田 浩	487

会員通信 *From Members*

雲南地衣類調査行 2014 (その4)

A field trip for lichen study in Yunnan, China, 2014 (Part 4) / by Harada H.

>>>>> 原田 浩: 千葉県立中央博物館

石林ではなく土林

石林(シーリン)は、昆明から南東に120kmほどと比較的近いこともあり、古くから観光地として知られていた。しかも2007年には貴州省荔波・重慶市武隆とともに世界遺産「中国南方カルスト」に登録されたことで、更に有名になったのではないだろうか。石灰岩が長い年月をかけて浸食されてできた、石灰岩の柱が林立する石林の奇観は、雲南省のガイドブックやネットでもたくさんの写真を見つけることができる。私も2003年の調査の折に、石林の近くで調査したが、そのことを本誌39号で簡単に触れた。

さて今回話題に上っているのは、「石」ではなく「土」、**「土林」**(チューリン)である。英語で書いたものを見ると、Stone Forestではなく、Soil Forestとある。雨が少ないので、土が徐々に浸食され土柱と呼ばれる柱のような構造物が林立する場所なのだそう。そういえば、香川県に土柱という場所があるが、似たような場所なのかもしれない(行ったことはないが)。

雲南省の元謀(ユエンモウ)県には、このような場

所が多数あるのだそうだ。今回の行き先は、浪巴鋪(ランバーブー)土林といい、最近、観光オープンした場所のようだ。

今回雲南を訪れるまでは、土林の存在は知らなかった。昆明からの出発時点には十分な情報を得ていなかったが、途上でドライバーが持っていた地元で出版されたガイドブックを車中で見て、その奇観を目にした。見てみたい・・・でも、地衣類はあるのかな?

4月21日、元謀の町から郊外に向かう。平野を出て丘陵地に入っていくと、それらしい地形がちらほらと見えてくる。なだらかな斜面を上り切った頂上近くが「浪巴鋪土林」への入口だ。入場料を払うのは良しとしても、そこに車を置いて暑い中をかなりの距離を歩かなくてはならないというのは問題だ。一昨日の午後には金沙江の近くでメンバーの一人が軽い熱射病にかかったという苦い経験もある。景色は一番良さそうだが、ここは断念して周辺で調査をすることになった(図1)。



図1. 浪巴鋪土林地区での調査.



図2. 浪巴鋪土林地区の土林.

土が露出している。岩は砕けて小さな破片になっているものが多い。灌木がまばらに生え、木陰はない。地衣類にとっても荒野か……。一応、岩の上に小さな地衣類がついているようだ。低木にも着生があるようだ。たまに幅が数十センチメートルの岩があると、比較的大きな地衣体が確認できた。黄色っぽいのはキ

クバゴケの仲間だと思われるが、日本産のものとはずいぶん様子が違った。場所によっては灌木に、立派なナミガタウメノキゴケなどもついていた。

移動の途中、道路脇の少し高いところから覗くと、異様な景色が見えるではないか(図2)。なるほど、これが土林というものか。(ネットで「雲南 土林」で

検索すると、写真が多数出てくるので、興味ある方はご覧を)。

浪巴鋪土林から高速道路を使うと昆明は近い。近くの村で昼食を済ませ、夕食前には余裕で昆明に着くことができた。私の7回目の、暑い暑い雲南調査は終わった。・・・終わったと思ったのだが、昆明も暑かった。32℃、観測史上最高気温を記録したそうだ。

これまで雲南調査の報告では、皆さんに勧めたい場所を多数取り上げたが、今度ばかりは一般向きではないようだ。

この4年間のプロジェクトは、金沙江のダム建設に

関連した調査なのだ和王さんから聞いた。なんでも200kmの区間に5つものダムを作る計画なのだという。この金沙江の流域は、雲南ではとても乾燥した特殊な環境であることは、土林のような地形が多数生まれていることから窺い知ることができる。今回の調査では、この地域の地衣類相が特殊である可能性を垣間見ることができた。しかし、ダムで沈んでしまう金沙江の河床付近についてはまだほとんど調査が進んでいない。「雲南地衣類調査行2014(その3)」(本誌128号)の図4に見える人家、図5に見える橋、そのたもとにあった宿も全て水没するのだという。

(完)

昆明の地衣類研究グループ

The Lichen Study Group at Kunming, Yunnan, China/ by Harada H.

>>>> 原田 浩: 千葉県立中央博物館

2014年4月末に、中国雲南省を離れる前、昆明植物研究所の地衣類研究グループの紹介記事を王欣宇(Wang Xinyu)さんに以下のように書いてもらっていた。

The lichen study group led by Mr. Wang Li-song, belongs to Herbarium, Kunming Institute of Botany, and is also a part of the Key Laboratory

for Plant Diversity and Biogeography, and 5 foundations are undergoing now, focusing on lichen study on Hengduan Mountains. Since 1981, about 45,000 specimens have been collected around the Hengduan Mountain and adjoin area, 86 papers have been published on lichen study, and two books 'Lichens of Yunnan' and 'Illustrated Medicinal Lichens of China' have

	Name	Study Group	Position
1	梁萌萌/ Mengmeng LIANG	Anzia/ Taxonomy	Intern Researcher /Kunming Institute of Botany
2	刘栋 / Dong LIU	Basidiolichens/ Phylogenetics	Intern Researcher /Kunming Institute of Botany
3	石海霞/ Haixia SHI	Psora/ Taxonomy	Master student / Yunnan University of TCM(Traditional Chinese Medicine) 云南中医学院
4	李建文/ Jianwen LI	Flavoparmelia/ Taxonomy	Master student / Yunnan University of TCM(Traditional Chinese Medicine) 云南中医学院
5	张雁云/ Yanyun ZHANG	Bulbothrix/ Taxonomy	Master student/ Kunming Institute of Botany
6	杨美霞/ Meixia YANG	Thamnotia/ Taxonomy	Undergraduate/Tianjin University of TCM 天津中医药大学
7	王欣宇/ Xinyu WANG	Traditional taxonomy	Assistant Researcher /Kunming Institute of Botany
8	王立松/ Lisong WANG	Traditional taxonomy	Associate Researcher /Kunming Institute of Botany



図1. 昆明の地衣類研究グループ (2014年4月).
左から順に2 (表の左列に示した番号), 7, 8, 5, 3, 6.

been released. Two master students have been graduated and 3 students are ongoing the master course./ 王 欣宇 (Wang Xinyu)

(訳) 王立松により率いられる地衣類研究グループは、中国科学院昆明植物研究所標本館に所属し、また植物多様性と生物地理学の重点実験室(中国12都市に分院がある中国科学院が、それぞれの専門分野の中心となる研究室として位置づけられたもの)の一部でもある。現在、5つの研究補助金を受け、横断山脈の地衣類に焦点を当てた研究をしている。1981年以来、横断山脈と周辺地域において地衣類標本を収集し、その数は4万5千点に達し、地衣類研究では86の論文を発表し、2冊の書籍「中国雲南地衣」と「中国薬用地衣図鑑」(それぞれ坂田、吉川によっていずれも

Lichenology 13巻1号で紹介された) を著した。修士の学生2名が卒業し、3名が修士で学んでいる。(この訳文には、一部、原田が補足を加えた。)

表は当時のメンバーである。現在、2の劉棟氏は韓国のSunchon大学に留学中、3の石海霞氏は貴陽薬用資源博物館(Guiyang Medicinal Resource Museum)にこの春就職された。5の張雁雲氏は、中国科学院の大学院生であるため、間もなく昆明を去り北京で講義を受けなくてはならないと言っていた。

ここ何年かの中に、王さんの研究室は大きく様変わりしていた。特に、王欣宇氏がスタッフとして加わったことは大きい。雲南の多様な地衣類と、スタッフによって、昆明が東アジアにおける地衣類研究の拠点の一つになりつつあることは、間違いないだろう。

●複製される方へ

本誌に掲載された著作物を複製したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌102号378ページに。

●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 102, p. 378 of this publication.

●Newsletter from the Japanese Society for Lichenology, no. 130, pp. 485-488: eds. Kinoshita K., Komine M. & Harada H., published by the Japanese Society for Lichenology, 17 Aug. 2015.

日本地衣学会ニュースレター 130号

発行日: 2015年 8月17日

編集: 木下 薫・小峰 正史・原田 浩

発行者・発行所: 日本地衣学会

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3-35

関西大学 化学生命工学部 生命・生物工学科

微生物工学研究室

©2015 日本地衣学会 (©2015 The Japanese Society for Lichenology)

本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します。無断転載・無断複製等は固くお断りいたします。